

ふりがな 氏 名	おおaura しんいち 大浦 真一	職 名	教授・心理臨床センター長
取得学位	修士（文学）・甲南大学大学院人文科学研究科		
学 歴	甲南大学大学院人文科学研究科人間科学専攻心理臨床専修 博士後期課程単位取得満期退学		
受賞歴等	2023 年 日本感情心理学会第 31 回大会優秀発表賞（第 2 著者として受賞） 2018 年 関西心理学会第 129 回大会研究奨励賞（第 2 著者として受賞） 2017 年 関西心理学会第 128 回大会研究奨励賞（第 2 著者として受賞） 2017 年 European Society for Trauma and Dissociation 2017 Best poster award （第 3 著者として受賞） 2017 年 日本臨床催眠学会第 18 回学術大会研究発表奨励賞（第 2 著者として受賞） 2015 年 日本心理学会第 79 回大会ポスター発表 優秀賞（第 3 著者として受賞）		
所属学会	日本心理学会、日本心理臨床学会、日本心身医学会、日本統合医療学会、日本健康 心理学会、日本健康科学学会、日本ヘルスプロモーション学会、日本感情心理学会、 日本パーソナリティ心理学会、日本トラウマティック・ストレス学会、日本子ども 虐待防止学会、日本臨床催眠学会、日本 EMDR 学会、日本ヒューマン・ケア心理学会、 関西心理学会		

教 育 活 動
（主な担当科目） 2026 年：（学部）心理演習、心理療法技法論、卒業研究 （大学院）臨床心理学特論、課題研究Ⅰ・Ⅱ、臨床心理実践実習 2025 年：（学部）心理演習、心理療法技法論、卒業研究 （大学院）臨床心理学特論、心理療法特論、課題研究Ⅰ・Ⅱ 2024 年：（学部）心理演習、心理療法技法論、卒業研究 （大学院）臨床心理学特論、心理療法特論、課題研究Ⅰ・Ⅱ 2023 年：（学部）心理演習、心理療法技法論、心理学検査実習 （大学院）臨床心理学特論、心理療法特論、課題研究Ⅰ・Ⅱ 2022 年：（学部）心理演習、心理療法技法論、心理学検査実習 （大学院）臨床心理学特論、心理療法特論、課題研究Ⅰ・Ⅱ 2021 年：（学部）心理演習、心理療法技法論、心理学検査実習 （大学院）臨床心理実践実習、臨床心理実習Ⅰ、臨床心理実習Ⅱ （その他） ・2019 年 9 月～ 高等学校において 17 回の心理学に関する模擬講義を担当 ・2020 年 4 月～ 大学院生の実習のスーパービジョンを担当 ・2022 年 4 月～ 大学院生の修士論文指導を担当

研 究 活 動
（著書等） ・公認心理師ハンドブック 心理支援編 北大路書房 共著 2024/7/20



受け継がれる、凛とした、しなやかさ。

TOKAI GAKUIN UNIVERSITY

- ・＜ふれる＞で拓くケア タッピングタッチ 北大路書房 共著 2022/10

(論文等)

- ・あおり運転の規定因の探索的検討 一車に対する愛好度・社会規範意識・車種に着目して― 東海学院大学紀要. 19, p. 39-p. 48 著者：土田奈佑・大浦真一 2025/12
- ・Body talk and the internalization of the ideal body image: examination based on the tripartite influence model Journal of Eating Disorders. 13 著者：Nahori Ito, Akira Hasegawa, Masaki Adachi, Shin-ichi Oura, Tetsuya Yamamoto, Yuko Matsuda, Takuro Tomita 2025/11
- ・アタッチメントの状態安定性・不安定性尺度 (SAAM) 日本語版の開発 心理学研究. 96 (1), p. 22-p. 32 著者：中井 (松尾) 和弥・大浦真一 2025/04
- ・大学生の催眠についてのイメージ自由記述回答に対する計量テキスト分析を使用した探索的研究―ヒューマン・ケア研究. 25 (2), p. 83-p. 99 著者：中谷智美・福井義一・今井田貴裕・磯和壮太郎・堀孝司・大浦真一 2025/03
- ・悪夢の苦痛度と QOL の関係における非合理現象信奉傾向の調整効果 東海学院大学紀要. 18, p. 63-p. 69 著者：山岸紗奈・大浦真一 2024/12
- ・LINE と Twitter (X) を介した攻撃行動を測定する尺度の作成 ストレス科学研究. 著者：豊村 美咲, 長谷川 晃, 大浦 真一, 山本 哲也
- ・Body talk and body dissatisfaction in Japanese university students: Longitudinal study using the Japanese Body Talk Scale Body image. 51, p. 101740-p. 101740 著者：Nahori Ito, Akira Hasegawa, Masaki Adachi, Shin-Ichi Oura, Tetsuya Yamamoto, Yuko Matsuda, Takuro Tomita
- ・アンガーマネジメントとアサーションのスキル向上を目的とした集団 SST 東海心理臨床研究. 19, p. 24-p. 34 著者：加藤百々奈・大浦真一
- ・タッピングタッチが援助に対する効力感や態度及び気分に与える効果に関する予備的検討―模擬カウンセリングとの比較― 東海学院大学研究年報. 9, p. 27-p. 34 著者：大浦真一 2024/03
- ・Maladaptive fantasy predicts negatively distorted self and other mental representation: A consideration of child abuse from psycho/neuro/biological perspectives Environment and Social Psychology 著者：Shiota, S., Oura, S., & Matsumoto, M. 2024/03
- ・催眠療法家に対する顕在的・潜在的信頼性 ―催眠術師や心理療法家との比較から― 人間と環境. 20, p. 55-p. 66 著者：中谷智美, 福井義一, 今井田貴裕, 堀孝司, 磯和壮太郎, 大浦真一 2024/03
- ・Personality Traits Characterizing a New Type of Depression Lead to Stress Generation in Japanese University Students Journal of Psychopathology and Behavioral Assessment 著者：Rika Fujiwara, Akira Hasegawa, Shin-ichi Oura, & Yuko Matsuda 2023/12
- ・褒められた頻度と満足度がグリットに及ぼす影響―人物と内容に注目して― 東海学院大学紀要. 17, p. 23-p. 32 著者：柘植一輝・大浦真一 2023/11
- ・未成年飲酒に対する容認態度に関連する要因 東海学院大学紀要. 16, p. 67-p. 79 著者：中村有翔・大浦真一 2022/11
- ・Preliminary validation of the self-report measure assessing experiences of negative independent



受け継がれる、凛とした、しなやかさ。

TOKAI GAKUIN UNIVERSITY

and dependent event frequency in Japanese university students Journal of Rational-Emotive & Cognitive-Behavior Therapy 著者：Hasegawa, A., Oura, S., Yamamoto, T., Kunisato, Y., & Fukui, Y. 2022/7

- ・他者からの評価が気になる成人女性の心理面接—自分の気持ちに従った意思決定を支える介入に焦点を当てて— 東海心理臨床研究, 17, p. 22-p. 32 著者：土山万里・大浦真一 2022/3
- ・催眠状態期待の修正を意図した心理教育による意識的・非意識的催眠態度の変化—大学生を対象とした予備的研究— 甲南大學紀要 文学編, 172, p. 151-p. 171 著者：著者：中谷智美・福井義一・大浦真一・今井田貴裕 2022/3
- ・Causes and consequences of stress generation: Longitudinal associations of negative events, aggressive behaviors, rumination, and depressive symptoms Current psychology, p. 1-p. 10 著者：Hasegawa, A., Oura, S. I., Yamamoto, T., Kunisato, Y., Matsuda, Y., & Adachi, M 2022/2
- ・タッピングタッチは一人でやっても効果があるか？—セルフタッピングの対人関係上の効果— ヒューマン・ケア研究, 22(1), p. 1-p. 11 著者：福井義一・大浦真一 2021/11
- ・母子関係に肯定的変化が生じた母親の心理面接 —リソースに焦点を当てた事例— 東海心理臨床研究, 16, p. 12-p. 22 著者：清田大貴・大浦真一 2021/4
- ・催眠状態に対する期待を測定する尺度の妥当性—因子の妥当性と収束的・弁別的妥当性の検討— 甲南大學紀要 文学編, 171, p. 253-p. 268 著者：著者：中谷智美・福井義一・大浦真一・今井田貴裕 2021/3

その他, 17 本の論文を刊行した。

(研究発表等)

国際学会発表 (筆頭発表)

- ・Effects of Tapping Touch self-care program for improving sleep Part 2 : Long-term effects 39th Annual Conference of the European Health Psychology Society 2025/8
- ・Congruence and Incongruence Between Explicit and Implicit Self-Esteem Predict Personal Space: A Name-Liking Study in Japan 2025 Annual Conference of the Korean Psychological Association 2025/8
- ・Effect of Tapping Touch self-care online program 12 : Contributors to improvement of insomnia symptoms 38th Annual Conference of the European Health Psychology Society 2024/9
- ・Should We Need to Improve both Conscious and Non-Conscious Attitudes toward Hypnosis?: Interaction between Conscious and Non-Conscious Attitudes toward Hypnosis on Hypnotizability 16th EUROPEAN SOCIETY OF HYPNOSIS CONGRESS 2023/10
- ・Effect of an online Tapping Touch self-care program on fear of COVID-19 Part 3 : Using the score of subjective adjustment to the group as an independent variable 2022 Taiwan Psychology Association annual conference Taipei, Taiwan(online) 2022/10
- ・Effect of an online Tapping Touch self-care program on fear of COVID-19 Part 1: Replicability



受け継がれる、凛とした、しなやかさ。

TOKAI GAKUIN UNIVERSITY

of the effect of the program The 19th Congress of the Asian College of Psychosomatic medicine
Irkutsk, Russia(online) 2022/8

その他、27本の発表（筆頭は8本）（2016～）を行った。

国内学会発表（筆頭発表）

- ・睡眠改善のためのタッピングタッチ・セルフケア・プログラムの効果 その5—その寄与因の探索— 第29回日本統合医療学会学術大会 2025/12
- ・睡眠改善のためのタッピングタッチ・セルフケア・プログラムの効果 その4—講座順序による効果の持続性の比較— 日本ヘルスプロモーション学会第22回学術大会 2025/12
- ・睡眠改善のためのタッピングタッチ・セルフケア・プログラムの効果 その3—心理教育の順序効果の検討— 第40回日本健康科学学会 2025/11
- ・あおり運転の促進・抑制要因 —車への愛好度，社会規範意識，車種に着目して— 第14回日本情動学会 2025/11
- ・成人期における心理的適応を促す肯定的な被養育行動尺度の試作—因子構造と妥当性の検討 日本心理臨床学会第44回大会 2025/9
- ・両親に対する内的作業モデルを測定する潜在連合テストの作成—両親との信頼に関わるエピソードを用いた妥当性の検討— 関西心理学会第135回大会 2024/11
- ・悪夢の苦痛がQOLに及ぼす影響における非合理的現象信奉傾向の調整効果 日本心理臨床学会第43回大会 2024/8
- ・オンラインによるタッピングタッチのセルフケア・プログラムの効果 10—セルフケアと不眠症状の変化の関連— 第65回日本心身医学会総会ならびに学術講演会 2024/6
- ・タッピングタッチはケアギビングや援助効力感を改善するか？ 日本心理学会第87回大会 2023/9
- ・オンラインによるタッピングタッチのセルフケア・プログラムの効果 9—不眠の各側面に対する改善効果とその持続性の検討— 第26回日本統合医療学会学術大会（オンライン） 2022/12
- ・オンラインによるタッピングタッチのセルフケア・プログラムの効果 5—講座開始前の値を要因にした再検討— 第63回日本心身医学会総会ならびに学術講演会：幕張メッセ 2022/6
- ・認知的・構造的ソーシャル・キャピタル尺度の試作その2—構成概念妥当性の検討— 第65回日本心身医学会近畿地方会（オンライン） 2022/2
- ・認知的・構造的ソーシャル・キャピタル尺度の試作その1—その信頼性の検討— 第25回統合医療学会（オンライン） 2021/12
- ・タッピングタッチの気分改善効果—ピアカウンセリングとの比較— 日本心理学会第85回大会：明星大学（オンライン） 2021/9
- ・タッピングタッチが援助に対する効力感や態度に及ぼす効果—模擬カウンセリングとの比較— 日本心理臨床学会第40回大会：お茶の水大学（オンライン） 2021/9
- ・眼球運動の代わりに両側性の光刺激を用いた一回限りのEMDRセッションの効果 その5—解離傾向の改善効果— 第20回トラウマティック・ストレス学会（オンライン） 2021/7



受け継がれる、凛とした、しなやかさ。

TOKAI GAKUIN UNIVERSITY

- ・オンラインによるタッピングタッチのセルフケア・プログラムの効果 3—セルフケアの実施回数との関係— 第 62 回日本心身医学会総会ならびに学術講演会：かがわ国際会議場（オンライン） 2021/7

その他、166 本の国内学会発表（筆頭は 58 本）（2012～）、国内外の学会のシンポジウムにおいて 9 本の話題提供を行った。

社 会 活 動

- ・2025 年 大阪経済大学公開講座：心と体の健康と防災セミナー（よりよい眠りのためにできること）
- ・2025 年 4 月～ 日本パーソナリティ心理学会，経常的交流委員会 委員
- ・2024 年 大阪経済大学公開講座：心と体の健康と防災セミナー（心の整え方—ストレスからの解放）
- ・2023 年 ぎふ国際高等学校 ぎふ国際高等学校保護者会講演会（生徒の自己肯定感を高めるための家庭や親子関係の在り方）
- ・2023 年 ぎふ国際高等学校 ぎふ国際高等学校教員研修会（教育相談における留意点と工夫）
- ・2023 年 大阪経済大学公開講座：心と体の健康と防災セミナー（心の整え方—身体を使ったセルフケアの紹介）
- ・2022 年 大阪経済大学公開講座：心と体の健康と防災セミナー（心の整え方—身体を使ったセルフケアの紹介）
- ・2021 年 大阪経済大学公開講座：心と体の健康と防災セミナー（「つながり」から健康長寿を考える）
- ・2020 年 東海学院大学・東海学院大学短期大学部公開講座 2020（「つながり」から健康長寿を考える～大学は知の宝庫～）
- ・2018 年 2 月～2019 年 2 月 関西心理学会第 130 回大会準備委員会 大会事務局長
- ・2014 年～ 30 回のメンタルヘルス関連の研修講師を担当



受け継がれる、凛とした、しなやかさ。

TOKAI GAKUIN UNIVERSITY